

AIロボのショールーム

具体的な活用方法提示

電製作所

生産設備など専用機の製造・開発を手掛ける電製作所（石田恭一郎社長、名古屋市南区）は19日、販売代理店を手掛ける米スタートアップ企業、インビアロボット「Picker Robot」のデモ走行と実演を行う「AIロボティクスショールーム（模擬倉庫）」を名古屋市にオープンした。

2020年8月に製造販売の業務提携を結んだインビア社のAI（人工知能）ロボットが、ピッキング、出荷、補充、管理、梱卸し、返品などで実際に動く様子を見られる施設として開設。導入を検討する企業の担当者に対し、より具体的な活用方法を提示する。同日の発表会で、石田社

長は「インビア社との業務契約締結後、製菓や靴、本文具など様々な企業から、実用化についての問い合わせが増えている。ショールームでは、より現実的な使い道を見てもらう機会として、見学を積極的に受け入れていく」と説明。

その上で「革新的なシリコンバレーの技術を日本に直接取り入れ、全く人の手



自動搬送ロボットのデモ走行とピッキングを実演

を介さず運べるインビアロボットの最大の特徴は、立体自動倉庫と同等の処理能力を低コストで導入できること。新型コロナウイルス禍で宅配需要が増える中、

現在、初期ロボットの30台が日本に到着しており、自社ショールームの165平方メートルの立

ピッキングミス無くして効率を上げるための新たな提案を、我々が物流業界に広げたい」と強調した。

現在、初期ロボットの30台が日本に到着しており、自社ショールームの165平方メートルの立

ホンセンター（技研IC、東京都品川区）に複数台を提供。効率向上の効果などについて実証を進める。

活用方法の実演では、ロボットを制御するインビアコネクトを介した独自の物流システム、インビアロジックによるWMS（倉庫管理システム）との連動により、人のみの場合に比べて作業効率が5倍になると解説。また、荷物の最大可搬重量が18kgで、取り出し高さは50×240cmであることなどについて、「機械メーカーとして、導入を検討する施設に合ったオリジナル仕様も、検証を進めながら要望に応じていきたい」としている。（梅本誠治）